

## くすぶり続けるエアバッグリコール問題

### ◆ 史上最大のリコールとなったエアバッグ問題、政府調査は終了

2020年8月、タカタ製エアバッグの問題について、ホンダは係争中だった米国の州などに和解金8,500万ドルを支払うことで合意した。自社製品に搭載したエアバッグ用インフレーターの破裂リスクを、規制当局に報告しなかったとして調査を受けていた。米国道路交通安全局（NHTSA）によると、関連事故によって米国では16名が死亡、250名が負傷し、リコール対象車両は4,000万台以上に至った。

### ◆ ガス発生剤の硝酸アンモニウム、見落とされた異常燃焼のリスク

インフレーターとはエアバッグを膨張させる装置であり、金属容器の中にガス発生剤や着火機構が組み込まれたものである。ガス発生剤の原料は硝酸アンモニウム（硝安）や硝酸グアニジンが用いられる。硝安は燃焼時のガス量が多く装置を低コスト化しやすいが、相転移により結晶構造や密度が変質する課題がある。

異常破裂が問題となったインフレーターは、世界で唯一実用化した、相安定化硝安（PSAN）が使用されていた。後の調査によって、異常破裂はインフレーター内部への水分浸透と、PSANの劣化による異常燃焼が原因と判明した。硝安は火薬の燃料などに使われるエネルギー物質だが、吸湿性が高く、利用時には厳密な湿度管理が要求される。PSAN化によって相転移問題は解決したが、硝安の吸湿性によりガス発生剤の物性が劣化して異常燃焼に至るリスクは見落とされていた。

### ◆ 新たなリコールの追加、大規模化し自動車メーカーへ波及する可能性

20年5月、NHTSAはフォルクスワーゲン車両の一部を、リコール対象に追加した。これまでリコール対象外だった、乾燥剤入りPSAN系インフレーターの一部に安全性の疑念が生じたためだ。同種のインフレーターは各自動車メーカーが採用しており、すでに大規模なリコール対象となっている乾燥剤なし品と同程度の数量が販売されている。今後の検証次第では、さらにリコール対象が拡大する懸念が指摘されている。また、新たに発生するリコールは、各自動車メーカーが責任を負うことになる。一連のリコール問題は終わりが見えない。 【塚原祐介】